



第 29 号

発行所  
全国曹洞宗青年会

〒105 東京都港区芝  
2-5-2 曹洞宗宗務庁内  
編集発行 全国曹洞宗青年会  
TEL. 03-454-5411(代)

# 厳しい自覚で教化の実践を

全曹青会長 桜井孝順



先輩諸兄、並びに会員の皆様の御指導・御協力を頂き、二年間の任期を精一杯つとめさせて頂いたたく所存であります。

このたび、全国曹洞宗青年会本部役員の任期満了にともなう改選が会則に従い行なわれ、昭和五十八年度総会（五月十三日）において、私が会長の大任をお引き受け、私が会長の大任をお引き受けすることにいたしました。本部役員として、研修委員・事務局次長・事務局長を務めさせて頂いたが、静岡の片田舎に住んでおり、何かと制約が多く、又、何の才能もない私に、この大役が務まるかどうか不安であります。幸い峰岸・大谷・松岡三師の副会長、また新美事務局長と青年会活動に精通した人材に恵まれ、心強い感が致します。

全曹青も創立以来、第五期をむかえようとしている現在、当初よりのメインテーマであります。大衆教化の接点を求めて、の大眼睛のもとに模索しながら、禅のつどい中央研修、禅文化とのふれあいを求めた禅文化学林の開催等々、子供達に、そして禅を求めの人々に「生きた仏教」の要素を示す努力が積み重ねられてまいりました。また第四期における「曹青のあゆみ」の発行、あるいは「曹青通信」の改訂等は、全曹青と各地曹青とのパイプとなつたと共に、各地曹青の活動を知らしめる貴重なものであつたと思われまふ。今、新年度をむかえるにあたり、スローガンを「厳しい自覚で教化の実践を」とさせて頂き、過去の実績をふまえ、教化宗団たる曹洞宗の青年宗侶として、青春のエネルギーの結果と自覚を求めた連携を深めていきたいと思っております。さらに各地曹青の現状にあつては、寺院運営一すじの青年宗侶より、兼職をやむなくしている仲間が多い今、互いに友情・知識・行動力を熟成させ、自らの人格の上に積み重ね、現代社会、そして家庭生活のニーズに応えるべき活動を展開してまいりたいものであります。

連日新聞誌上、又はテレビを賑わしている青少年の非行・暴力事件等は、その根の深さと教育・社会・家庭の荒廃をまざまざと感じさせられます。このような社会問題に目をそむけて、正法の灯を守りえることはできないものであります。心の時代の訪れを願う現代社会の要請にこたえ得るべく、各地曹青と全曹青が力を合わせ、情緒豊かで明るい社会作りの担い手となりえる青年宗侶の弛まない情熱を教化の実践に生かし、個々のあふれるような英知を発揮できるような青年会を目指し、会員諸兄の前向きな理解と、ひたむきな運動展開への協力を期待いたします。

（1）地方集会和仏教講座  
管区単位で開催される地方集会は年々盛大となり内容も充実してきています。昨今、全曹青の趣意を理解してもらつと共に、地方の実状に沿った仏教講座を開催したい。

（2）組織の拡充と会員拡大  
団体・個人加入のそれぞれの長所を生かし、会員相互の連携、仲間意識の高揚を図り、広く知識・行動力を求めて明日の宗門を拓く体制を確立していきたい。

（3）禅のつどい研修 禅文化学林  
全曹青の足元母体は禅のつどい運動をぬきにしては考えられない。四半世紀続いた伝統にさら

（4）「曹青通信」の発行  
各地曹青との連携と情報交流を図り、現代に求められるものの連載等、宗門のマスコミ誌をねらつて年四回発行。また、隔月宗報に曹青短信をのせる。

（5）教化資料の制作と提供  
前年度出版された「仏教の生活ハンドブック」は好評を得た。本年は、さらに家庭内で活用できる生活信条等の資料を制作したい。

（6）会議運営  
例年にならぬ充実した事務局会、総合企画委員会・理事会を運営し、さらに本部と単位曹青との連携を深める評議員会の充実を図る。

静岡県第三宗務所第十六教区、  
栄林寺副住職、静岡第三曹青、  
全曹青事務局次長、可睡斎専門僧  
堂役寮、天竜市教育委員、天竜  
青年会議所理事長、駒大卒、昭和二十一年生

# 退任にあたって

前全曹青会長 桑原大宗

ここに、桜井新会長に後事を託すにあたり、第四期二年間の私共の職責を大過なく全うすることができましたことは、全国の会員各位の暖かい御支援のたまものと深く感謝申し上げますところであります。

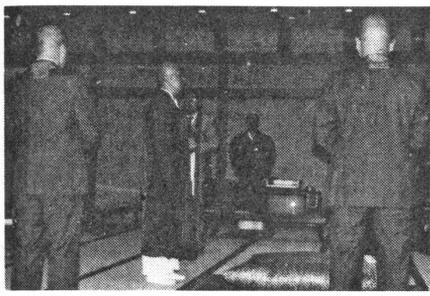
省りみますと、二年前の昭和五十六年の五月八日、当時、北陸地区の理事として会務に参画していたとはいえ、全く本会の事業活動についての知識がなかった私が、突如として総会の議決を得て職に

就いてよりこのかた、初の副会長三人制と強力な各委員会構成の扶けをいただき、一期二年にわたり事業の推進にあたってまいりました。

本紙第二十一号において、私は「みずからの行履をもとめて」と題して、第四期目の事業推進にむかっただけの方針をのべておきました。その中で三本の柱をあげ、組織、研修、広報の三委員会の活動の展開を通して、原点に帰った活動を目指しました。

「原点」をみつめた時、私共は過去七年間の「曹青のあゆみ」の必要性を感じ、更に「続・曹青のあゆみ」へと発展するものであります。この間の詳細については、今までの「曹青通信」を通して皆様に報告申し上げているところであります。

思うに、全国曹洞宗青年会の発展を願い、更には地域曹青との連帯を思い、数々の事業を推進するに当り、北は北海道から南は九州まで、それぞれ各地域曹青におい



て活動している会員が一堂に会し、一つの目的のもとに一致団結して事業運営にあたったあの姿が脳裏に焼きついて離れません。

最後に、退任にあたり、本会のために御指導御助言をいただき、また諸会場の提供等物質的にも御協力をいただきました宗務当局の皆様には厚く感謝申し上げます。任のあいさついたします。全曹青が新体制のもと大同団結して、大きく飛躍することを期待します。

## 新副会長 事務スタッフプロフィール



副会長 山口県第六教区 天浄寺住職、山口曹青会長、全曹青評議員、理事、組織委員長 駒大卒 昭和十八年生



副会長 京都府第三教区 苗秀寺住職、全曹青評議員、理事、京都曹青会長、龍谷大卒、大阪府公立学校教員 昭和十九年生



副会長 群馬県第十四教区 聖沢寺住職、曹洞宗教化研修所、群馬曹青副会長、全曹青理事、事務局次長 駒大卒 昭和二十年生



事務局次長 愛知県第三宗務所第五教区 報恩寺住職、愛知第三曹青副会長、梅花流師範 駒大卒 昭和二十二年生



事務局次長 新潟県第一宗務所第七教区 宝林寺副住職、新潟曹青 駒大卒 昭和二十七年生

大海 修一

新美 忍雄

峯岸 秀哉

大谷 俊定

松岡 秀雄

全国曹洞宗青年会は発足以来八年を経過し、このたび本部役員交代により、新しい執行部を選出し、明日への飛躍を期していることは、誠に心強い限りである。

全曹青は、戦後各地で燎原の火の如く興った「禅の集い」の主宰者を集めた「曹洞宗青年教化連合会」が母体となつて生れたことは周知の通りである。

全曹青結成時の昭和五十年頃は、経済急成長がもたらした社会の歪が、いろんな角度から問題にされ、そうした社会的背景の中で、宗教の現代社会への役割が厳しく問われていた。(今日でもそうであるが、)

こうした中で、わが宗門の持つ封建的体質から対社会に向つた大衆教化宗団への脱皮をスローガンに、この全曹青が組織されたと記憶している。

宗門は教化宗団でなければならぬ、と叫ばれて久しいところである。この場合の教化宗団は主として宗門僧侶を指している。この点在家仏教を標榜する新興仏教が「信者ぐるみ」在家ぐるみ」で伝道布教に当たっているのとはいささか違っている。宗門教化の原動力はあくま

で宗門僧侶が中心となっている。

教化宗団には三つの性格と機能が必要である。つまり宗門のメンバーは第一に、仏教の正しい信仰や教理を持つていること。第二には、仏教の信仰や教説を他に正し

三つの機能が必ず具備していることは、仏教の歴史が如実に語っている。

全曹青のめざすものとして、「会員一人一人が曹洞禅の本旨に目覚め、相互の連携を深め、つねに必要な社会的活動を通して、宗教心に根差した人間の育成をはかり、もって健全な社会の形成に貢献する」ことを目的としており、この条文をみる限りでは、さきの三つの機能がそれなりに盛られている。

しかし、今日の宗門を直視する時、在家教团的な色彩を強めているが、建前としては出家教団の立場を取らざるを得ない二重構造を持つている。それでも三つの機能が多少でも持続されておれば、曲りなりにも宗門の命脈は保持されるであろうが、果たして今日の宗門にこの機能が健在するかどうか、自問すべきである。

全曹青にあつても、若き宗侶の連帯と親睦を深めることも大切であるが、もっと深刻に宗門の活性化を目的し、三つの機能を持つ教化宗団の原点に還り、ひたむきな精進を特に切望する次第である。

く伝え、大衆を教化救済出来ること。そして、第三は正しい仏法を後世まで持続させる人材を養成することである。仏教が栄え、その信仰や実践が正しく伝えられた場合には、この

## ひたむきな精進を

宗務総長

伊藤 治雄



### 総合企画委員会

#### プロフィール



菊地 裕光

総合企画委員長 岩手県第四教区 興禅院住職、全曹青研修委員長、副会長、岩手曹青副会長、大法輪、宗務庁勤務  
駒大卒 昭和十八年生



安藤 実英

研修委員長 神奈川県第六教区 玉宝寺住職、全曹青評議員、理事、研修委員、神奈川県曹青会長  
駒大卒 五百羅漢幼稚園々長  
昭和二十一年生



小原 宣弘

組織委員長 茨城県第一教区 祇園寺副住職、全曹青評議員、茨城曹青事務局局長、副会長  
慶大、駒大卒  
昭和二十六年生



宇野 全匡

事業委員長 山形県第一宗務所第十七教区 地福寺住職、山形曹青役員、尾花沢青年会議所理事長、地福寺青年塾々長  
駒大卒 昭和十九年生



平和 宏昭

広報委員長 兵庫第二宗務所第一教区 琴松寺住職、曹洞宗教化研修所、全曹青事業委員長、那仏役員、管内布教師、宗務庁勤務  
駒大卒 昭和十九年生

# 創立10周年にむけて 新体制で第5期目に入

昭和五十八年度

## 総会報告

それは五月十三日(金)、宗務庁五階の研修道場で開催された。横殴りに雨が窓ガラスを叩く、生憎な朝であった。

「この天候では出席者が少ないのではなからうか」との執行部の懸念に反し、受付時間になると、全国各地からそれ／＼の曹青の代表者らが参集して来た。久方振りの邂逅を喜び合う姿は、傍から眺めていても微笑しい。

開講式の直前になると、研修道場は若き宗僧で溢れ、机と座布団を補充した。

十時定刻に、桑原大宗会長の導師により、開講読経が厳修された。副会長が開会を宣し、会長が挨拶を行なった。続いて来賓として、財政部長の来馬規雄老師より、全曹青を大いに期待しているから、お互いの力を結集して、飛躍発展して欲しい、との激励の祝辞をいただいた。

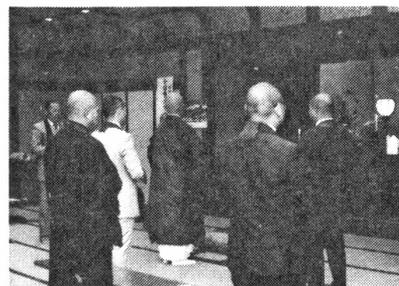
桜井孝順事務局長より、総会出席人数、委任状五三八通の報告があり、事務局より、総会資料の確認がなされた。議長に森孝道君、副議長に山田孝成君が選出され、議事録作成人に事務局より、峯岸秀哉事務局次長、署名人には、杉浦紹雄君ならびに長尾昭雄君が指

名された。

いよく議事に入り、先づ桜井事務局長が、前年度の事業報告を行なった。特に地方集会の報告では、北陸が「仏教は社会の要請に  
応えているか、社会は仏教の期待に  
応えられるか」のテーマで、著名人を講師に招き、九回にわたって新潟曹青が中心となり、長岡市でセミナーを開催したこと。

九州は鹿児島市で九州七県の代表者が、各県の行事活動の報告を行なうと同時に、現代のニーズに  
応えるには、我々はどうのように対処したらよいか、との研修会を開催したこと。

東海は静岡県の可睡齋で、「宗門を語る講座」を、僧侶五百余名を集め、(一)現代社会に生きる仏教、



(二)仏教徒の教育、(三)慈悲の精神から見た福祉、(四)私にとって信仰とは何かのテーマに基き、パネルディスカッションを開いたこと。

東北では山形の善宝寺で「直面する現実社会」についてと題し、宗教法人会計の認識を深める研修分科会、ならびに「龍神信仰」の講演があったこと。

近畿では奈良県で無着成恭先生が、「人それ／＼に花あり」と講演され、婦人会・PTA等五百数十名が耳を傾け、終って、チャリティーバザーを開催したこと。

中四では岡山県で「現代の布教と真の教化者像」について佐々木宏幹先生、「民間信仰の特色」は三浦秀有先生が講演され、良寛和尚の史跡も訪ねたこと、等を発表した。出席者は真剣な眼差で聞き入り、時折メモをとっていた。

研修委員会報告を、岡部康善委員長が行なった。「教化者としての学習」「教化者としての敷衍」を目標に、前・後期の「禅のつよい中央研修会」を開催し、「坐禅による教育と信仰の深め方」を教化研修所講師の中野東禅先生、臨済宗妙心寺派、龍源寺住職であり、中広く活躍中の松原哲明先生から「南無の会の活動」を学んだ。

また、禅文化学林を大本山総持寺で「シルクロードと仏教文化を語る」と題し、東京芸大の小泉文

夫教授・国立博物館の杉山二郎先生等も招き、開催したことを告げた。

事業委員会報告を、平和宏昭委員長が行ない、「仏教の生活ハンドブック」の出版、「曹青のあゆみ」と、その統編の発行、「授戒会差定」の増刷。前述した「宗門を語る講座」のパネルディスカッションを行なったことを発表した。

広報委員会は、南敬剛委員長が第二十五号を記念とし、B5版に変更し、内容はローカル色、現代に求められるものを連載し、充実に目指した。特に提言は、今後の教化上で指針になるよう考慮した等を報告した。

組織委員会は松岡秀雄委員長が理事会・評議員会を通して、地方曹青への組織拡充のアピール、次期執行部選考委員会を発足させ、審議したことを報じた。

続いて、峯岸事務局次長から決算報告が提出され、監査委員を代表して、伊藤直俊君が、事業が適正に執行され、事業報告の内容は真実であり、会計は適正に処理されている上に、帳簿・証書類共に完備され、収支の状況を正しく示していると認められると、監査報告を行なった。出席者から活発な質疑がかわされ、可決承認された。

特別事業委員会から、佐野令彬委員長がレコード「只管打坐」の売上枚数、その会計報告を行な

今年度予算九八〇万余承認

昭和57年度決算書

昭和58年度予算書

歳入決算額 歳出決算額 差引残金	昭和57年度決算書					昭和58年度予算書						
	6	5	4	3	2	1	6	5	4	3	2	1
	子計	広	事	組	本	会	子計	広	事	組	本	会
	備	報	業	織	部	議	備	報	業	織	部	議
	費	費	費	充	費	項	費	費	費	充	費	項
	金	入	入	入	金	入	金	入	入	入	金	入
九、六八八、〇七三円	九、四〇五、九七四	一、六三〇、〇〇〇	三、〇五〇、〇〇〇	一、六〇〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	本年予算 一、〇〇〇、〇〇〇	九、四〇五、九七四	一、六三〇、〇〇〇	三、〇五〇、〇〇〇	一、六〇〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	前年度予算 一、〇〇〇、〇〇〇
九、五〇〇、一四二円	九、四〇五、九七四	七五、九七四	〇	〇	〇	決算 一、〇七三、〇〇〇	九、四〇五、九七四	七五、九七四	〇	〇	〇	本年予算 一、〇〇〇、〇〇〇
一八七、九三一円	九、五〇〇、一四二	〇	〇	〇	〇	増減 一九〇、〇〇〇	九、五〇〇、一四二	〇	〇	〇	〇	増減 一九〇、〇〇〇

○ 全曹青経費、57年度(950万)は次のようにつかわれ、本年度(980万)はこのようにつかわれます。

57年度						
会議費 136万 総会・理事会 評議員会 14%	本部費 205万 事務局費、通信費 旅費 21%	総合企画 44万 4.6%	組織 102万 地方集会 11.9%	研修 262万 禅のつどい中央研修会 禅文化学林 27%	事業 104万 曹青のあゆみ 仏教の生活ハンド ブック 12%	広報90万 曹青通信 9%
子備費						
58年度						
会議費 140万 総会・理事会 評議員会 14.8%	本部費 199万 事務局費・通信費 旅費 21%	総合企画 45万 5%	組織 160万 地方集会 16%	研修 210万 禅のつどい中央研修会、禅 文化学林、シンポジウム 21%	事業 90万 講演録 9%	広報 128万 曹青通信 13%

い、委員会を解散すると発表した。  
役員改選の件では、華原正憲選  
考委員会委員長が経過報告と、新  
役員を発表を行なった。会長に静  
岡、桜井孝順君、副会長に山口の  
松岡秀雄君、京都の大谷俊定君、  
群馬の峯岸秀哉君の三人が紹介さ  
れ、万雷の拍手で承認された。  
新役員挨拶では桜井新会長が、  
これからの抱負を、力強く述べら  
れた。  
今年度の事業計画案、ならびに  
予算案が上程された。事業では  
「家庭訓」や「講演集」の発行、  
次年度に計画されている、十周年  
大会の実行委員会の発足と、その  
事業の推進、予算では、宗務庁よ  
りの補助金が、七百万円に増額さ  
れたことが特徴であった。  
これまた原案通り、可決承認さ  
れた。  
総会をふり返ると、全曹青に対  
する期待は大きく、全国の会員が  
その動向を見つめている。  
従って、全曹青の使命は遠大で  
あり、柔軟な行動性と情熱を失っ  
てはならない。我々は先人の期待  
を享受し、社会の要請にこたえる  
宗門の活力化を果し、人間救済の  
旗手となるよう、怠らず精進しな  
ければならないように思う。  
総会が終わると、いつしか雨は  
上り、洗われた街の屋並が、初夏  
の日射しに、輝いていた。

## 昭和 58 年度 全 曹 青 事 業 計 画

月	会 議	事 業	そ の 他		会 議	事 業	そ の 他
5	事務局会 理事会 評議員会 総会 新・旧役員引継ぎ	前期禅のつどい中 央研修会		11	事務局会 理事会	東海地方集会 (名古屋)11/15~11/16 近畿地方集会 (大阪) 11/17~11/18 関東地方集会 (土浦) 11/26~11/27	
6	理事会・事務局会  総合企画委員会	九州地方集会 6/14~6/15 (宮崎)	曹青通信第29号	12	事務局会		家庭訓の発行
7	事務局会	各地禅のつどい	禅のつどい資料の 作成	1	事務局会 理事会		曹青通信第31号
8		各地禅のつどい		2	事務局会 理事会 評議員会	後期禅のつどい中 央研修	
9	理事会・事務局会		曹青通信第30号	3	事務局会 理事会	禅文化学林	
10		東北地方集会 10/29~10/30 (置賜)	宗門を語る講座	4	事務局会 理事会		曹青通信第32号

### S 57 事業報告

- 五月 一日 事務局会・研修委員会
- 十四日 総会・前期禅のつどい中央研修会
- 三十一日 「仏教の生活」ハンブック増刷
- 六月十五日 「授戒会差定」発行
- 二十一日 北陸地方集会
- 二十五日 九州地方集会
- 七月 二十三日 事務局会・理事会
- 二十八日 会則増刷
- 八月 一日 曹青通信第5号発行
- 三十一日 事務局会・理事会
- 二十七日 宗門を語る講座
- 二十八日 東海地方集会
- 三十日 東北地方集会
- 七月 八日 広報委員会・事業委員会・研修委員会
- 二十九日 事務局会・理事会
- 三十日 総合企画委員会
- 七月 四日 近畿地方集会
- 二十日 事務局会・評議員会
- 二十五日 曹青通信第2号発行
- 三十一日 事務局会・研修委員会
- 二月 八日 理事会・評議員会・次期会長選考委員会
- 九日 後期禅のつどい中央研修会
- 十五日 「統曹青のあゆみ」曹青通信第7号発行
- 二十六日 中・四国地方集会
- 三月十一日 次期会長選考委員会
- 十七日 第五回、禅文化学林

### 全 曹 青 役 員

- |                   |            |
|-------------------|------------|
| 会 長               | 桜井孝順(静岡県)  |
| 副 会 長             | 峰岸秀哉(群馬県)  |
|                   | 大谷俊定(京都府)  |
|                   | 松岡秀雄(山口県)  |
| 事 務 局 長           | 新美忍雄(愛知県)  |
| 同 次 長             | 大海修一(新潟県)  |
| 監 査               | 佐野令彬(愛知県)  |
|                   | 菊地伯也(岩手県)  |
| 理 事               | 吉岡棟憲(福島県)  |
|                   | 安藤実英(神奈川県) |
|                   | 佐藤孝一(新潟県)  |
|                   | 鈴木巖大(愛知県)  |
|                   | 西野正行(京都府)  |
|                   | 鈴木章純(広島県)  |
|                   | 光吉健爾(佐賀県)  |
|                   | 井川悦導(東京都)  |
| 同 総 合 企 画 委 員 会 長 | 菊地裕光(岩手県)  |
| 同 事 業 委 員 会 長     | 宇野全匡(山形県)  |
| 同 組 織 委 員 会 長     | 小原宜弘(茨城県)  |
| 同 研 修 委 員 会 長     | 安藤実英(神奈川県) |
| 同 広 報 委 員 会 長     | 平和宏昭(兵庫県)  |

# 提言

## 全国曹青活動の

## 未来像を求めて

庄内曹青会長 正野光周

熱気の中であの感動的な発足を  
した全国曹青の歩みも、四代目か  
ら五代目の会長を迎えようとして  
いる。

今、この曹青活動も充実に向け  
て更に新たな一歩を進めようとし  
ているわけであるが、この時期に  
あたり全国の会員にも、未加入の  
青年宗侶諸師にも提言してみたい。

発足したばかりの頃の曹青通信  
に、一日も早く個人加入の制度か  
ら、集団加入の制度への道を拓く  
べきではないかと提言したことを  
思い起していただきたい。今日よ  
うやくその集団加入の制度も容認  
され、両者併存のところまで来た  
のは非常に喜ばしいといえる。  
会員になって、何の得るところ  
があるのかはいつも自問自答して

きたところである。その答はいつ  
の場合でも学習と連帯という点に  
あったものである。

この点をもう少し深く考えてみ  
ると、将来に渡って宗門を支えて  
いくべき青年宗侶の団結と連合の  
全国曹青たらんことを期すべきで  
ある。従来ともすると経済基盤も  
弱く個人加入が主流であったため  
に、会の運営も、役員になった諸  
師の高度の奉仕の信念と犠牲的な  
出費で支えられてきたのである。  
つまり自主団体であるべき全国曹  
青が自主財源を持つてはいても少  
額なために、宗務当局の政治的配  
慮の下に、多額の宗費支出による  
援助に支えられてきたのは歴史的  
な事実である。

こうした全国曹青の悲劇的な性

格を克服するにはどうすべきであ  
ろうか。

一つの方法として全国の各宗務  
所単位の曹青適合年令者、つま  
り、二十才以上四十才までの宗門  
人の義務加入とし、その単位曹青  
の自主活動と連帯を強化すべきで  
あろう。管区曹青にしても同様に  
各単位曹青の確実な代表権者を以  
て、その運営に与らせていく方向  
を確立すべき時期に来ているので  
はなからうか。

共通の問題意識と学習の場とし  
ての効用こそが曹青活動の原点で  
なければならぬ。

宗門の危機的状況を好転させて  
いく力の源点としての曹青活動の  
あり方は、青年宗侶としての着実  
な歩みでなければならぬ。その  
ためには、経済的な自立と、会員

### 蒲 坐

大好評！東北曹青推薦。

1個 2,500円 (10個単位でお申込み下さい)

お申込みは、  
東北曹青坐蒲設置運動推進委員会へ

宮城県名取市増田 耕竜寺内  
郵便番号 981-12

基盤の確立をはからなければなら  
ない。

ともすれば役員独走と影口を  
いわれがちな今日の曹青に対し  
て、宗侶としての連帯を発揮して  
積極的に参加していくべき時であ  
る。

今や時代の方向は、明治の排佛  
毀釈にも似た方向に流れているこ  
とを思い知らねばなるまい。

(山形県飽海郡平田町砂越

長応寺内)

# 社会的価値ある活動をしよう

## 寺院専門の書道用具店

その他中国美術工芸品



当店には塔婆専用に開発した非常に木  
に強い毛切れのしない筆があります。

静岡市新川2-9-31 TEL.0542-81-8005

# 前期禅のつどい中央研修会

# ドキュメント「子供の食卓」

講演 NHK家庭部 内林達夫氏



現代社会の食生活マナーの乱れに目を向け私共が携わっている禅のつどいや坐禅会でのように対処できるか又したらよいかを考え、去る五月十三日宗務庁研修道場に於て総会終了後禅のつどい中央研修会を開催した。

開会の言葉に続き、会長が禅のつどいの重要性と今回のテーマである「食生活」について全国的キャンペーンをはって取り組みたいとの意欲に燃えた挨拶がなされた。続いてNHK家庭部次長、内林達夫先生の紹介が講師と親しい前会長佐藤泰惇師より行われた。講演は「子供の食卓」で、これは昨年十二月NHK特集番組「子供達の食卓」が全国放送された大反響を呼び再放送された経過であります。

まずテレビで放送された処のビデオを視ながら今日の社会問題になっている子供達の心と体のアンバランス、青少年の非行化についての一因に食生活の乱れがある事実が調査資料や子供とのインタビューで明らかにかなり大きなショックキングを与えられた。参考までに今おかれている一例。

○子供達は満腹観はあるが満足観がない。

○楽しい家庭団樂の食卓が父親は仕事等の関係で不在が多く、いても職場の悪口を言つて愚痴をこぼしたり、母親は学校での出来事やテストの事をくどく聞くこと子供にとって楽しい食卓でなくなり一人で食事をするようになる。

○大人の都合主義で菜をつくり子供栄養が片寄りすぎ健康は学校給食でないでいる。

○非行を犯した子供達の食生活は調査の結果家族団樂の食事を放棄した家庭である。

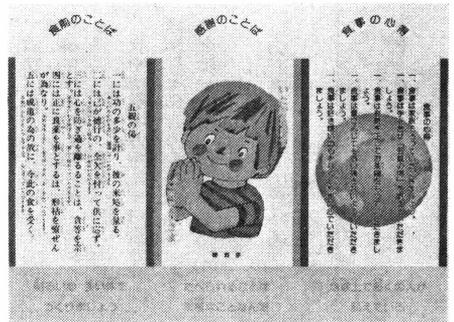
さて外国に目を向けてみますと、アメリカ社会では家族揃つて食事をすることが多く食前には必ずお祈りをする。韓国はアメリカ以上に多く主菜等大皿に盛り家族がつき合つて食べいかにもたのしい食卓である。

かつての日本の風土のなかで育つてあげた食生活文化は何処へ行つ

てしまったのだろうか、高度経済成長によって物の豊かさの中にとつぷり浸つてしまった今日、一度失なつたものを取り戻すことは安易ではない。しかし私共がそれをしなければならぬ使命がある。

宗祖道元禅師の食生活の規矩である、典座教訓、赴粥飯法、を広く敷衍すれば食生活の乱れを正し得るものと信じる次第です。幸い全国津々浦々で開催されている禅のつどいこそ好因縁であると存じます。

そうした意味において「家庭食事訓」なるものを作成しましたので充分ご利用いただき度お願い申し上げます。尚宗務庁刊十六ミリ映画「食」もご利用の程重ねておねがい、いたします。



—ご寺院の豊かな明日をクリエイトする—

**私達の仕事は** 寺院運営企画・建築・設計・営繕工事  
境内・墓地清掃保守管理施工  
寺院用品/焼却炉など環境用品販売

●あらゆる相談をお待ちしております!

見積無料 ☎(364)0671~3

法律・会計相談も行っております。

—日本寺院株式会社—

〒160 東京都新宿区百人町1-13-2

NHK特集  
**こどもたちの食卓**  
 ～なぜひとりで食べるの～

**調査の目的・対象など**

体格は良くなったが朝礼で倒れたり、ちょっとしたことで骨折したり、こどもの成人病が増加するなど、現代っ子の心身の異常が各方面で心配されている。何が原因なのか？食生活面では、どのような実態があり、健康とどうかかわっているのか。NHK家庭部では、女子栄養大学食生態学研究室の協力を得て小学5・6年生の食生活調査を実施した。絵とアンケートによるこの調査から、奇妙な事実があらわれた。

- (1) 4割近いこどもたちが、大人不在の食卓についている自分の姿を描いた。(朝食)
- (2) 1割のこどもは、朝も晩も親と食事をしていない。
- (3) 3割以上のこどもが食べざかりにもかかわらず、食事が楽しくないと答えた。
- (4) 1/3のこどもは栄養の偏りが心配される。
- (5) ひとりで食べるこども程、栄養の偏り、楽しくなさ、健康上の自覚症状が多い。
- (6) ひとりで食べるこどもの母親は、その時家にいる。

調査は、昭和56年の9月に、全国の都市・農村地域で1,179名に実施した他、57年9月に調査を加え計2,000名を対象にした。

アメリカでは、メリーランド州ロックビル市のセントジュードスクールなどで100名。(11-12才児)  
 韓国では、ソウル市の秋溪国民学校の生徒100名。(11-12才児)

**調査結果**

**§ 1. 誰と食べたか**

	家族全員	大人もいたが 全員ではない	こども だけ	ひとり	欠食 1%		家族全員	大人もいたが 全員ではない	こども だけ	ひとり	欠食 1%
(1) 日本(朝食)	22%	38%	21%	18%	(夕食)	41%	41%	8%	9%	1%	
(2) アメリカ(〃)	11	21	31	37	(〃)	57	30	7	6		
(3) 韓国(〃)	42	21	21	16	(〃)	78	7	15			

⊕ 日本で、朝夕とも大人不在(こどもだけまたはひとり)の食事10%

**§ 2. 夕食を家族そろって  
食べるのは、1週間に…**

日本	アメリカ	韓国
3.4回	5.4回	6.1回

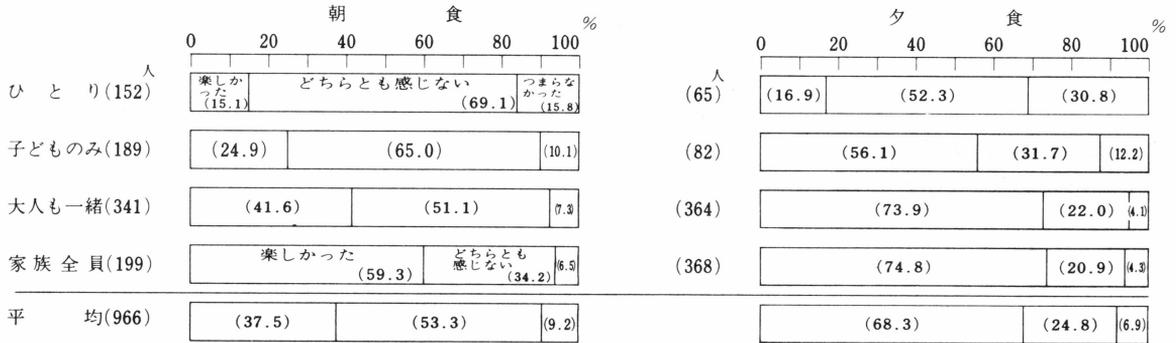
**§ 3. 夕食が楽しい**

日本	アメリカ	韓国
68%	89%	67%

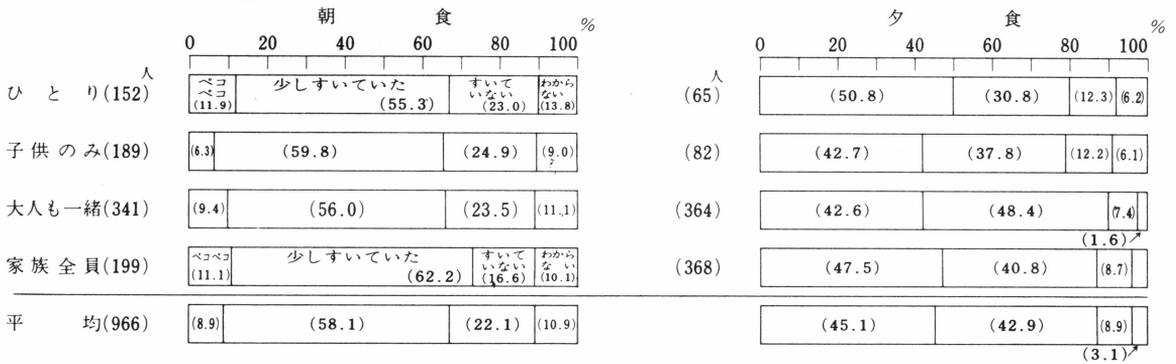
**§ 4. 夕食のとき テレビを見た**

日本	アメリカ
60%	13%

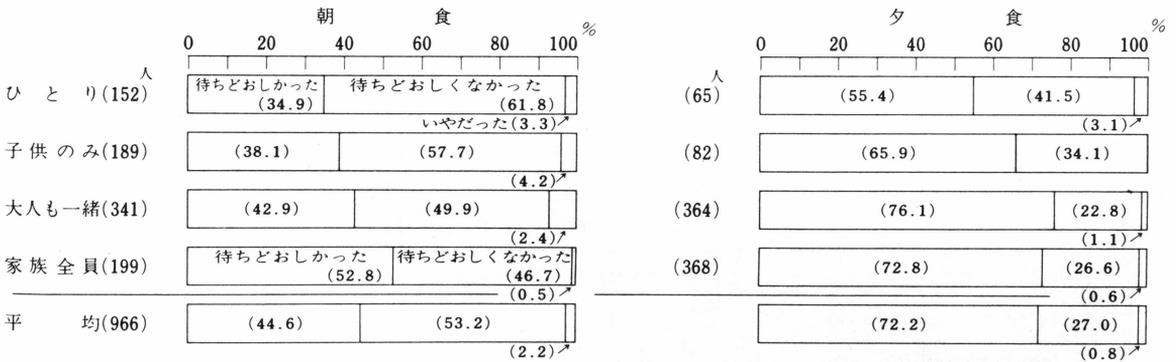
§ 5. 食事は楽しかったですか



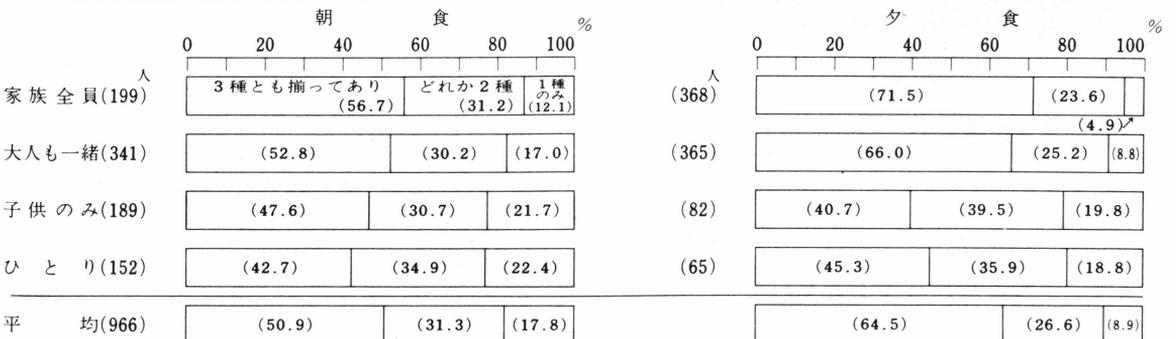
§ 6. お腹がすいていましたか



§ 7. 待ちどおしかったですか



§ 8. 主食、主菜、副菜の組合せ (主菜…肉や魚、卵料理、副菜…野菜料理)



§ 9. ひとりで食べる子ほど  
食事が楽しくない

ひとりで食べた子のうちで食事が 楽しいと感じなかったのは…	家族全員で食べた子のうちで 食事が楽しいと感じなかったのは…
83 %	25 %

§ 10. 次のようなことが  
ありますか？

(成人に対する問診を  
こどもに実施)

	項 目	男	女
①	胃の調子がおかしい	8 %	14 %
②	便秘しやすい	2 "	5 "
③	食事がおいしく食べられない	11 "	17 "
④	下痢しやすい	5 "	7 "
⑤	だるくなりやすい	19 "	30 "
⑥	足が重い感じがする	15 "	20 "
⑦	元気がでない	13 "	16 "
⑧	頭がいたくなりやすい	17 "	29 "
⑨	目まいしやすい	8 "	11 "
⑩	風邪をひきやすい	25 "	31 "
⑪	夜よく眠れない	21 "	26 "
⑫	手足がしびれる感じがする	18 "	16 "
⑬	心臓がどきどきしやすい	12 "	15 "
⑭	足がはればつたい	2 "	3 "

§ 11. ①～⑭の自覚症状を4個  
以上重ねて持っている

ひとりで食事をした子では	家族全員で食事をした子では
25 %	15 %

§ 12. ひとりで食事をすることもたち。  
その時、母親は家にいる！

朝	夕
91 %	77 %

§ 13. 朝夕の料理数合計が6未満 32.9%

(6未満の場合、主食+主菜+副菜が確保されていない)

**2台で1セット**

●使用時・高さ75cm×開口60cm×奥行40cm  
●収納時・タテ85cm幅60cm×厚サ8cm

Aタイプ 55,000円  
(ハト返し有り)

Bタイプ 50,000円  
(ハト返しなし)

●1台のみの場合は半額 ●色は、黒色  
溜色・朱色

■申し込み資料請求はハガキにてどうぞ。

株式会社 **サヤック** インターナショナル・ジャパン  
〒183 東京都府中市浅間町4-3 電話0423(69)2431

折疊焼香台

- <御用途>
- 屋外供養
  - 前卓など
  - 本堂焼香
  - 説教機
  - 墓前供養



# 事務局だより

## ◎事務局長あいさつ

此の度全曹青総会におきまして事務局長を拝命し、その重責を担うことになりました。固より浅学非才にてその器ではありませんが、桜井新会長はじめ執行部各位と一団となり、皆様方の御慈愛のもと、任期を全うする覚悟であります。全曹青も今期にて十周年を迎える事となり諸先輩の足跡に敬意を表する次第です。今期におきましては、各会員の悲願でもあります会員相互のより一層の結果を図って行きたいと思えます。活動については会長の意をふまえ皆様と共に精進致したく存じます。今後ともよろしく御協力の程お願い申し上げます。

## ◎OB会結成の動向

昭和五十九年の十周年記念に向け全曹青OB会の結成の動きもみられ大変心強く思います。

## ◎「曹青通信」

第25号よりスタイルを一新して早くも第30号をむかえます。記念号を企画しています。ご意見を聞かせて下さい。

# 日本海中部大地震被害者の方々に

## 衷心より御見舞い申し上げます。

## 事務局日誌

4月27日 禅のつどい中央研修会事前打合せ

NHK 内林達夫氏訪問

5月12日 事務局会・理事会・評議員会・会務監査

5月13日 昭和五十八年度総会

禅のつどい中央研修会  
新旧役員懇談会（熱海）

5月30・31日 事務局会・理事会  
6月14・15日 九州地方集會出向  
（会長・副会長・事務局長）

## 入会のご案内と会費納入のお願い

宗侶としての生甲斐を確かめ、心から話し合える場に参加しませんか。18才以上の宗侶は、誰れでも入会できます。40才までの方は、正会員。40才以上の方は賛助会員として参加していただきませう。

前年度まで一三〇〇余名の会員が登録されておりますが、会費未納の方が多数あります。どうか全曹青発展のため会費納入をお願いします。尚、地区単位曹青にてまとめて納入のときは、納入会員名を書き添えてお願いします。

又、事務局台帳の充実を期するため、振替用紙裏面かハガキ等にて生年月日、住所、寺名、地区曹青役職等なるべくくわしく書き添えて、事務局宛にお送り下さい。

# 破草鞋

新体勢でスタートを切った。新会長は典座和尚である。ちなみに西洋と日本の料理の違いを考えてみよう。日本料理はなるべく自然の風味を壊さないように、四季おりりの新鮮な材料を生かし調理しようとする。自然に恵まれない西洋ではなるべく自然の味から脱却しようとする。素材の持ち味よりも油やソースによって味を変える食文化を創り上げてきた。ここにも自然と共存する東洋文化と、自然を克服しようとする西洋文化との違いがみられる。▼西洋文明のいたずらなのか、箸を正しく持てない若者が増えてきた。学校では、ウズマキ鉛筆が考案され鉛筆の持ち方にまで四苦八苦とか。正しく鉛筆が扱えないと姿勢を悪くするからである。▼「おはよう」の朝の挨拶が出来ない者が多い現今、手を合わせ「いただきます」「ご馳走さま」という日本の正しい食礼法を見なおさなくてはならない。箸の扱い方や食事作法で家庭の躰までがわかると言われてきた。▼精進料理は、心で作る心で味わう料理。道元禅師著述の「永平赴粥飯法」には食作法の原典が示されている。外国よりも自国の食事礼法を身につけていきたい。(左)

# 佛教の生活 ハンドブック

- 1冊500円(送料200円)
- 50部以上1割引
- 100部以上1割5分割引
- 送料は宗務庁頒価送料

前編 修証義にもとづいて

第1章 自己の章	第2章 仏に照らされる章
第3章 出合の章と決意の章	第4章 共通のいのちを共に生きる章
第5章 安心と感謝の章	

後編 清らかな生活文化

第1章 行持	第2章 大衆一如	第3章 対大已	第4章 礼拝儀則
--------	----------	---------	----------

申込先〒105 東京都港区芝2-5-2 曹洞宗宗務庁内  
全国曹洞宗青年会宛